

(様式1)

平成23年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

| | |
|---|---|
| (整理番号) 033 | 提案機関名 農業技術センター普及指導部 |
| 要望問題名 イチゴの高設栽培の培地・培土の塩類濃度の適正化について | |
| 要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 県内において、イチゴの育苗および本圃として高設栽培が増えてきている。高設での連用作付けに伴い、培地にカルシウムなど塩基の一部が過剰蓄積している事例が認められ、生育も徒長気味になっている傾向があるが、培土の塩類集積と生育との関係が判然としないため、労力・経費がかかる培土交換などの対策・助言がしにくい状況にある。 そこで、イチゴの培地の塩類濃度や培地の物理性の適正範囲を明らかにして、培土交換時期などの目安となるようにお願いしたい。 | |
| 解決希望年限 | ①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内 |
| 対応を希望する研究機関名 | <input checked="" type="checkbox"/> ①農業技術センター ②畜産技術所 ③水産技術センター ④自然環境保全センター |
| 備考 | |

| | | | |
|---|---|-------------|---------|
| 回答機関名 | 農業技術センター | 担当部所 | 農業環境研究部 |
| 対応区分 | ①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 <input checked="" type="checkbox"/> ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可 | | |
| 試験研究課題名 (①、②、④の場合) | | | |
| 対応の内容等 技術センター内で試験を行うよりも、現地の実際の設備を用いて対策を検討するほうが、より現実的な方法と考えます。そこで現地での対策検討を行う際に必要な、情報提供や技術支援を行います。 培地の交換が困難で塩類集積が進んだ場合の簡易な除塩方法としては、除塩作物の栽培が有効と思われますので、除塩作物についての情報提供や、現地土壌の実態調査を実施する際の、技術支援を行います。 また、イチゴ高設栽培については他県等による多くの研究例（例えば「平成10年度課題別研究会－イチゴ高設栽培の現状と問題点（野菜・茶業試験場）」）があるので、既存情報の提供も行います。 | | | |
| 解決予定年限 | ①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内 | | |
| 備考 | | | |